

「漁連の魚屋」が複数のデザイン賞獲得

スペース（東京都中央区、佐々木靖浩社長）がプロデュースした鮮魚店「漁連の魚屋」（兵庫県加古川市）が「第41回ディスプレイ産業賞（2022）」（主催：日本ディスプレイ業団体連合会）で「ディスプレイ産業優秀賞」（経済産業省商務・サービス審議官賞）をはじめとした複数のデザイン賞をこのほど受賞した。



スペースがプロデュースした「漁連の魚屋」

兵庫県漁業協同組合連合会が運営する「漁連の魚屋」のテーマは「魚が大好きになる場所」。県内で漁獲される68種の魚を描いた壁面アート、漁の様子や魚の調理過程が流れるモニターを店内に設置。兵庫の魚について楽しみながら学ぶことができる空間を実現した。

ガラス張りの厨房では魚の調理工程を見ることができ、臨場感を演出し、店の前を通った人にも魚に関心をもってもらえるように工夫した。



田中氏

スペースの田中三弘ブランディングディレクターは「同店舗は日本の食文化の代表とも言える“魚食”を広めたいといったJF兵庫漁連の思いが込められている」と強調した上で「ブランディングはまだ始まったばかり。私たちは“漁縁パートナー”として、これからも共に課題を解決し、未来を創造していく」と意欲を語る。